

2003 年度 委員会活動成果報告

(2004 年 月 日作成)

| | | |
|---------------------|---|-------------------------|
| 委員会名 | 基礎構造系振動小委員会 | 主 査 名：福和伸夫 |
| 所属本委員会 (所属運営委員会) | 構造委員会 (振動運営委員会) | 委員長名：西川孝夫 主 査 名：篠崎祐三 |
| 設 置 期 間 | 2001 年 4 月 ~ 2005 年 3 月 | |
| 設 置 目 的 各年度活動計画 | 耐震設計への動的相互作用導入のための方法の検討 入門書「やさしい・動的相互作用を考慮した設計法(仮題)」の執筆 「構造物と地盤の動的相互作用シンポジウム」の開催 | |
| 委員構成 (委員名(所属)) | 主査：福和伸夫(名大) 幹事：林 康裕(京大)・宮本裕司(鹿島建設) 委員：新井 洋(防災科技研)・嵐山正樹(久米設計)・飯場正紀(国総研)・鬼丸貞友(竹中工務店)・北村春幸(理科大)・栗本修(大林組)・田守伸一郎(信州大)・中井正一(千葉大)・永野正行(鹿島建設)・福武毅芳(清水建設)・船原英樹(大成建設)・森伸一郎(愛媛大) | |
| 設置 WG (WG 名：目的) | 動的相互作用刊行物WG ： 入門書「やさしい・動的相互作用を考慮した設計法(課題)」の内容審議・執筆を行う | |
| 2003 年度予算 | 410,000 円 | |

| 項 目 | 自己評価 |
|-----------------------|---|
| 委員会活動状況 (開催日・参加人数) | 5/16・13名、7/23・12名、9/22・13名、11/7・10名 WG：5/16・13名、7/23・12名、9/22・14名、10/15・11名、11/7・14名、1/23・15名 |
| 得られた成果 | <p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無) 本年は出版物の審議・執筆と、第7回構造物と地盤の動的相互作用シンポジウム開催の2つの活動を主に実施した。 出版物に関しては、小委員会設立後20年の節目を終えたこともあり、2001年度より、動的相互作用研究の推進に加え、動的相互作用を考慮した耐震設計の普及をめざして、「やさしい・動的相互作用を考慮した設計法(仮題)」-相互作用効果を設計にどのように取り入れるか-の刊行を目指して検討を進めている。本年度は主に、試設計例の審議を重点的に行うと共に、新年度に本格的に執筆を行う部分についての内容構成の審議を行った。 また、12月には、刊行物の内容を世に問うために構造物と地盤の動的相互作用シンポジウムを12月に開催した。シンポジウムでは、相互作用を考慮した試設計例を中心に議論を行った。本小委員会では現在、耐震設計に動的相互作用効果を導入することによって、より合理的な耐震設計法を構築することを目指しており、従来の参加者と比べ、設計に携わる技術者の割合が増加してきたことは意義があったと思われる。</p> <p>委員会 HP アドレス：</p> |
| 目標の達成度 | (当初の活動計画と得られた成果との関係) 当初目指していた、動的相互作用を考慮した試設計が概ね終了し、それに基づいたシンポジウムが開催でき、参加者から忌憚のない意見を伺うことができた点は十分に評価できる。ただし、刊行物の執筆が若干遅れ気味であるので、今後、鋭意努力を続ける予定である。 |
| その他評価すべき事項 | WGを設置したことにより、若手研究者の育成ができつつある。 |